様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年 １０ 月 ２６ 日現在

機関番号：６２６０８
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１３０５５

研究課題名（和文）日本近代文学における江戸文化の受容と表現に関する通史的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study on Reception and Expression of Edo Culture in Modern Japanese Literature

研究代表者
多田　蔵人（Tada, Kurahito）

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：７０７５７６０８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：主たる研究対象である永井荷風のほか、岩倉使節団、矢野龍渓、森鴎外、宮崎三昧、小林秀雄、島尾敏雄といった作家たちについて論文を発表し、江戸文芸以来の表現様式の変遷過程を通史的に追うことができた。
このほか古典受容に関わる資料の紹介も多く行い、書誌学と表現研究の相互補完的進展という目的も達することができたと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、従来乖離してきた古典文学研究と近代文学研究を繋ぎ、「日本文学研究」というより大きな学問領域を樹立することに寄与する。また分析方法について、草稿、重版、異文といった書誌学の事項に着目することで、一つの作品や文を「ありえた複数の形」とともに分析する方法を提案することができた。この結果、作品の「文体」について、従来の研究よりも実証的かつ精確な史的位置を同定することができるようになった。
本研究が示した文体分析研究の進展は、日本語の文や作品が持つ豊かな意味と各作品の言語技術をくみ上げることに寄与するため、学術のみならず、教育などのさまざまな領域において、社会的意義をもつものである。

研究成果の概要（英文）：This year, in addition to my main research subject, Kafu Nagai, I published papers on authors such as the Iwakura Embassy, Ryukei Yano, Ogai Mori, Zanmai Miyazaki, Hideo Kobayashi, and Toshio Shimao.In these papers, I was able to trace the transition process of expression styles since the early modern literary arts historically. In addition, many materials were introduced, and we believe that we were able to achieve the goal of mutually complementary development of literature research and expression research.

研究分野：日本近代文学

キーワード：日本近代文学　日本近世文学　書誌学　文体　古典受容　永井荷風　森鴎外　矢野龍渓

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

現在、江戸文化の近代における継承・変容状況については、通史化の試みはほとんど行われていないのが現状である。近代文学を通時的に捉えた論にかぎっていえば、興津要『転換期の文学』（早稲田大学出版部、1960 年）、前田愛『都市空間のなかの文学』（筑摩書房、1982 年）、平田由美『女性表現の明治史』（岩波書店、1999 年）といった先駆的な業績があるものの、文化の中の特定の領域の研究にとどまってきた。このことの原因としては、しばしば、文学研究が特定の作家・作品の研究に集中しているという点が指摘されてきたが、より深い原因として、理論的研究と資料的研究との乖離が挙げられる。

本研究では近代を伝統文化の継承という観点から捉え直してみることで、これまで実態が明らかでなかった江戸文化と近代との連続性に目を向けることができ、また、一部の作者やテーマのみに偏らない広い視点から日本近代文学の研究を行うことが可能になるのである。

２．研究の目的

日本近代において、江戸期の諸文化を受け継ぎ、変化させていった文学現象と典籍の網羅的調査を行い、日本文化史における江戸と近代との連続性を明らかにするとともに、これを基礎資料とした作品研究を行い、「日本近代文学」を古典文化との関わりのなかで、通時的に捉えなおす。

従来、日本近代文学研究は、西洋文化の影響を重視する一方、江戸と近代との断絶を、暗黙の前提としてきた。江戸文化と近代文化との関連が指摘される際にも、利用されるべき資料の範囲は確立したとは言いがたい状況にある。本研究による調査研究はこうした状況を大きく改善し、今後の日本近代文学研究に資するところが大きい。さらに、文学の調査は他領域における江戸と近代との連関を究明することにもなり、文学のみならず、日本文化研究全体への貢献が見込める。

３．研究の方法

江戸受容の資料的・歴史的研究と、江戸受容作品の研究を並行して行う。初年度は、全国の資料所蔵機関のうち、当該研究に関わる資料を所蔵する東京・大阪の機関と、貴重資料が未調査のままに残されている各機関の資料を調査するとともに、公共機関未所蔵の重要資料をも収集し、データベース化する。この時点で六割程度の調査を終えることを予定している。二年目は前年度に網羅しきれなかった地方の機関で出張調査を行うとともに、資料の翻刻紹介を行う。

また、調査と並行して、諸学会・研究会における情報の収集にも努める。江戸と近代の関わりを解明する上で重要な指標となる文学作品について、成果の発信を意識し、学会での口頭発表や論文発表を積極的に行う。

４．研究成果

本研究は、従来乖離してきた古典文学研究と近代文学研究を繋ぎ、「日本文学研究」というより大きな学問領域 を樹立することに寄与する。また分析方法について、草稿、重版、異文といった書誌学の事項に着目すること で、一つの作品や文を「ありえた複数の形」とともに分析する方法を提案することができた。

本研究課題の中心テーマである永井荷風の江戸受容について、論文（単著）「永井荷風と漢学――『下谷叢話の表現』」を発表した。また論文（単著）「「趣味」（Taste）とは何か――近代の「好古」」は、江戸から近代への変遷過程で文化の重要な物差しとなった「趣味」という語（Taste の訳語）の語誌から、個々の文学作品の指向性を測定する論である。論文（単著）「島尾敏雄『出孤島記』論」は、これまで概ね昭和戦前期までの研究にとどまってきた代表者の研究を戦後の文学へと広げ、近世から戦後にいたる長いスパンで文学モードの問題を考えるきっかけとなるものであった。

多田蔵人「言葉をなくした男――森鷗外『舞姫』」を発表した。書簡などの明治初期の文章作法書とともに『舞姫』を分析することで、主人公の持つ啓蒙的文体概念が崩壊してゆく過程を描いた小説として『舞姫』を捉えた論である。本論文は雑誌「日本文学」の学会時評（2022 年 3 月）において冒頭に取り上げられ、高く評価された。多田蔵人「宮崎三昧『辛亥日誌』：蒐集家の表現」（『日本近代文学館年誌 資料探索』を発表した。明治期の蔵書家にして小説家でもあった宮崎三昧が、文例集や名文集を大量に購入しながら小説・戯曲の表現を練り上げていたことを、日本近代文学館所蔵の三昧の日記

の分析を通じて明らかにした論考である。
「日本古書通信」誌上にて二度行った資料紹介では、近代の「重版」という活字本文化を、近世文化との関わりとともに掘り起こした。
この結果、作品の 「文体」について、従来の研究よりも実証的かつ精確な史的位置を同定することができるようになった。 本研究が示した文体分析研究の進展は、日本語の文や作品が持つ豊かな意味と各作品の言語技術をくみ上げることに寄与するため、学術のみならず、教育などのさまざまな領域において、社会的意義をもつものである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 多田蔵人	４．巻 105
２．論文標題 言葉をなくした男――森鴎外『舞姫』	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本近代文学	６．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 多田蔵人	４．巻 1
２．論文標題 書物のない場所――戦後文学に描かれた「書物」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 大宅壮一文庫解体新書	６．最初と最後の頁 245－250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 多田蔵人	４．巻 97(5)
２．論文標題 島尾敏雄『出孤島記』論	５．発行年 2020年
３．雑誌名 国語と國文学	６．最初と最後の頁 100-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 多田蔵人	４．巻 2
２．論文標題 岩倉使節団における文化比較と翻訳―モンテスキュー著・何礼之訳『万法精理』	５．発行年 2019年
３．雑誌名 明治の教養 変容する〈和〉〈漢〉〈洋〉	６．最初と最後の頁 114-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 多田蔵人	4．巻 241
2．論文標題 小林秀雄『実朝』論	5．発行年 2019年
3．雑誌名 アジア遊学	6．最初と最後の頁 194-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 多田蔵人
2．発表標題 書物表現の文学史
3．学会等名 日本近代文学会（招待講演）
4．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

1．著者名 小林ふみ子・中丸宣明・神田正行・出口智之・大塚美保・真島 望・佐藤 悟・金 美眞・有澤知世・阿美古理恵・稲葉有祐・多田蔵人・合山林太郎・関口雄士	4．発行年 2020年
2．出版社 文学通信	5．総ページ数 270
3．書名 好古趣味の歴史：江戸東京からたどる	

1．著者名 関谷博・古田島洋介・楊爽・田部知季・伊豆原潤星・ 多田蔵人・瀧田浩・須田千里・河野龍也・平崎真右・渡邊ルリ・山口俊雄・山口直孝・杉浦楓太	4．発行年 2020年
2．出版社 戎光祥出版	5．総ページ数 298
3．書名 講座 近代日本と漢学 第6巻 漢学と近代文学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関